

<受賞商工会議所の観光振興への取り組み>

◆きらり輝き観光振興大賞（1カ所）

佐原商工会議所（千葉県）

まちづくり型観光の推進

佐原では、市民が主体となって本物にこだわる「江戸優り」のまちづくりを進めてきたが、さらに、商工会議所や行政、企業等が一体となって、地域ぐるみのまちづくり観光に発展させている。無いものを嘆かずに、あるものに磨きをかけ、佐原の山車行事（国指定重要無形民俗文化財）と国指定の重要伝統的建造物群保存地区の、重要と名が付く二つの宝が生まれている。歴史的町並み、佐原の大祭等の文化や暮らしそのもの、水辺空間（水運と水辺の景観）はもとより、とりわけ市民のまちづくりへの取り組み自体を地域資源として活用しているのが特徴である。

佐原商工会議所は、平成12年度に佐原市（現香取市）が観光による地域振興を掲げ中心市街地活性化計画を策定したことを受け、「相手は世界 江戸優りの大商い」を理念とするTMO構想を打ち立てた。15年度以降、まちづくりフォーラムや軒下コンサートの開催等、まちの賑わい創出事業に継続して取り組んでいる。22年度には香取市とともに「集客・観光・交流アクションプラン」を策定、「江戸優り」の理念を一層深化させている。



◆きらり輝き観光振興賞（2カ所）

伊勢商工会議所（三重県）

お伊勢さん観光案内人と元気再生事業

平成25年に予定されている伊勢神宮の式年遷宮により観光客の大幅な増加が見込まれるなか、伊勢商工会議所はお伊勢さん観光案内人や元気再生事業等、受け入れ態勢の整備に力を入れている。

お伊勢さん観光案内人（写真）とは、ご当地検定「お伊勢さん」上級合格者による、オーダーメイド型観光ガイド事業。ガイド認定者が個人や小グループの観光客のニーズに応じた案内を行っている。毎年着実に依頼件数が増え、単独で採算のとれる事業に成長し、補助金に頼らない独自のビジネスモデルとなっている。元気再生事業では、「お伊勢参りは外宮から内宮へ」のならわしや江戸時代に流行したおかげ参りの仕組みを活用し、観光客を外宮周辺の飲食店へ誘導、内宮への集中と交通渋滞の緩和を図っている。両事業を通じ、観光客の満足度向上と再訪者の増加を目指す。



広島商工会議所（広島県）

「広島湾域 体験型修学旅行の誘致推進」～地域一丸で交流型観光～

広島商工会議所が中心になり、行政の枠を越え、広島県、山口県にまたがる広島湾域（7市6町）の自治体、商工会議所、商工会、民間企業等（75機関）で構成する「広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会」を平成12年に設立。

瀬戸内海の島々の魅力を活かした体験型修学旅行誘致を官民一体で推進しており、住民参加の研修会や全国の旅行会社への営業活動といった諸事業に取り組んでいる。広島の平和学習に訪れる修学旅行生を対象に、山口県周防大島町をはじめ、農・漁業等の体験プログラム、民泊家庭との交流（写真）が教育の場としてニーズが高まっており、今年は、全国各地から中学・高校24校 約3,800人を呼び込んでいる。さらに、広島県の江田島市・大崎上島町も受け入れ態勢を整える等、活動が広がってきている。



◆観光立“地域”特別賞（2カ所）

ひたちなか商工会議所（茨城県）

Fight&Smile ひたちなかご当地グルメ

ひたちなか商工会議所は、地域の食材を活用して食育のための体験観光の仕組みづくりを推進するとともに、地元の業種組合と連携して名産品を開発している。

名産品は、味はもとより、ネーミングにもこだわった、インパクトのある仕上がり。「勝ったの街の勝つ！サンド」（旧市名の勝田＝勝った！茨城のブランド豚ローズポークのとんかつを、醤油ベースの特製タレと全粒粉パンではさんだカツサンド）や「みなとの多幸（たこ）めし」（煮だこ生産日本一にちなみ、地だこ、那珂川の鮭、つと豆腐など、地の食材を盛り込んだ引っ張りだこの名物弁当）、「干しいもパイ・ほっしいも」、「イチゴのダックワーズ・イチゴダッペ」と、続々ご当地グルメが誕生している。



久留米商工会議所（福岡県）

B級ご当地グルメでまちおこし

久留米商工会議所は、B級ご当地グルメを通じて久留米の食文化を内外に向け発信すると同時に、地域資源として磨いてきた。

B級グルメ「元祖豚骨ラーメン」「焼きとり日本一」「筑後うどん」の三味一体となった、食による官民一体の10年にわたる取り組みは、集客力を誇るB-1グランプリで開花し、食でまちを元気にするムーブメントとなった。B級ご当地グルメの聖地（まち）として継続してPRするとともに、市民参加・体感観光型の「食の八十八カ所巡礼の旅事業」を始動させ、ご当地グルメ店を観光資源化。そして、多様な着地型観光商品が詰まった「久留米まち旅博覧会」と連動させることで、広がりが出てきている。



◆奨励賞（3カ所）

長井商工会議所（山形県）

まちづくり基金で磨き、ナビでつなぐ

長井商工会議所は、平成19年に地域資源情報サイト「ながいタウンナビ」（写真）を開設。見る、学ぶ、歩く、楽しむの4分野で、季節ごとの観光ポイントをまとめ、地域資源やイベント、宿泊・飲食・買い物に関する情報を全国に向けて発信している。また、財団法人民間都市開発推進機構、長井市からの拠出、市民・企業からの寄付により「長井まちづくり基金」を創設。事務局を務め、申請者へのアドバイスや建物を活用したイベントの提案等、ソフト・ハード両面で支援している。



上田商工会議所（長野県）

戦国武将「真田幸村」活用による観光振興

上田商工会議所は、戦国大名真田三代の郷として、武者行列を中心とした「真田まつり」を行政と連携して開催。また、アニメ「戦国BASARA」とタイアップした商品開発（りんごクッキー、シードル、りんごワイン、地ビール等、写真）をはじめ、宝探しイベントの実施や、真田関連の史跡を巡る着地型観光ルートや広域観光マップの作成等、歴史上の人物を活用し、アニメとコラボした新しい観光に取り組んでいる。



下諏訪商工会議所（長野県）

オルゴールプロジェクトで地域をPR

下諏訪商工会議所は、地域資源のオルゴールを核にした観光振興に取り組んでいる。60年以上前に創立した国内唯一のオルゴールメーカーが存在する地域であることから、「オルゴールプロジェクト」を推進。コンサートの開催や展示会への出展（写真）、新商品の開発を通し、継続的に情報発信することで、日本のオルゴールのふるさとであることをPRしている（諏訪湖オルゴール博物館奏鳴館や下諏訪町役場庁舎1階ロビー等で、オルゴールに触れることができる）。

